

平成21年12月7日（月）

（午前9時30分 開議）

○議長（中西峰雄君）おはようございます。  
ただ今の出席議員数は22人で定足数に達しております。

○議長（中西峰雄君）これより本日の会議を開きます。

開会に際し、議長より一言お願い申し上げます。一般質問の質疑につきましては、議事の進行上できるだけ簡潔明瞭に、答弁者側も簡潔明瞭に答弁していただくことをお願いいたします。

○議長（中西峰雄君）この際報告いたします。  
市長から平成21年12月4日付、橋総第111号をもって追加議案3件が送付されました。議案はお手元に配付いたしております。これを今会期中にご審議願うことといたします。  
以上で報告を終わります。

#### 日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（中西峰雄君）これより日程に入り、日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第81条の規定により、議長において21番 上久保君、24番 中西 健君の2人を指名いたします。

#### 日程第2 一般質問

○議長（中西峰雄君）日程第2 一般質問を行います。

今回の一般質問の通告者は19人であります。  
質問は会議規則第62条の規定により、別紙の順序により発言を許します。  
順番1、2番 阪本君。

〔2番（阪本久代君）登壇〕

○2番（阪本久代君）おはようございます。早速始めさせていただきます。通告に従い、一般質問を行います。今回は2項目です。

まず第1項目め、高卒未就職者を出さないために、です。

厚生労働省は、来春卒業予定の高校生の就職内定率（9月末時点）が、前年同時点を13.4ポイント下回る37.6%にとどまったと発表しました。また、和歌山労働局によりますと、来春の新規高卒者の求人倍率と就職内定率は、9月末現在、前年同期比で過去最大級の下げ幅となっており、厳しい状況が続いているということです。求人倍率は0.28ポイント減の0.57%、就職内定率は11.5ポイント減の40.1%です。県教委、県、和歌山労働局の3者は10月22日、県内の経済5団体（県商工会議所連合会、県商工会連合会、県経営者協会、県中小企業団体中央会、和歌山経済同友会）に対し、来春の高校卒業予定者の採用枠の拡大などを要請しました。

今年春の高校卒業生では216人が就職できなかったということです。高校を卒業し、仕事を通じて社会に貢献したいと願う高校生の希望をかなえるために、市としてできることがないか、市長の考えをお伺いいたします。

まず1点目は、市内の高校生の就職内定率はどうなっていますか。

2番目、宮城県では、高校生を採用する企業に一人15万円の奨励金を支給するということです。市内の事業所が採用できるよう、助成金を出すことはできませんか。

3点目、京都府は、就職が決まらない来春の高校卒業生を最大4カ月間雇用し、有給で職業訓練を受けさせるということです。11月

20日付毎日新聞の記事を紹介すると、「情報技術や医療・介護保険事務、介護ヘルパーや農林業などの訓練を民間施設に委託。卒業者は8万円前後の月給を受給しながら、それらの人材育成プログラムを受け、ハローワークの協力で4カ月以内に就職先を見つけることをめざす。財源は緊急雇用対策基金を充てる」ということです。同様のことが橋本市でもできませんか。

2項目めに移ります。コミュニティバスの充実を。

高齢化が進む中で、コミュニティバスの充実がますます求められています。公共交通の充実は、橋本市のまちづくりにとって重要であると考えます。現在、コミュニティバスも含めた地域交通のあり方を検討するため、地域公共交通基礎調査が行われ、法定協議会も設置される予定です。その中に、できるだけたくさんの市民の声が反映されることを要望します。

現在の2台3コースでは便数を増やすことができません。少なくとも1台1コースにするべきではありませんか。また、市内7中学校区のうち、紀見北中学校区はコミュニティバス運行地域から外されています。これは南海りんかんバスの運行が大きな理由であると思います。しかし、バス停までかなり距離のある地域もあり、コミュニティバスを望む声はたくさんあります。例えば、紀見北地区公民館を中心に、オークワ前、紀伊見荘、光陽台、紀見ヶ丘、三石台というコースは考えられないでしょうか。また、乗り継ぎ割引などがあれば、コミュニティバスや既存の交通機関の利用も増えるのではないのでしょうか。

以上です。

○議長（中西峰雄君）2番 阪本君の一般質問に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長（中山哲次君）登壇〕

○総務部長（中山哲次君）おはようございます。それでは、橋本市コミュニティバスについてのご質問にお答えいたします。

議員ご質問のとおり、本市では、本年度において地域公共交通基礎調査と、国の補助事業である地域公共交通総合連携計画策定のための法定協議会の設立を予定しております。

まず、1台1コース運行の実現につきましては、現在、本市のコミュニティバスは、定員12名のバス2台で、市内3ルートを1日12便運行しており、今年10月には市民の要望を受け、軽微なルート変更とバス停の増設などの見直しを行いました。コミュニティバス利用者は年々増加の傾向にあり、市民から新たなルートや、増車、増便の要望も受けているところでございますが、道路事情や民間バス路線との兼ね合いもあり、すべての地区にコミュニティバスを運行することは困難であると考えています。

しかし、本市といたしましても市民の要望にできるだけおこたえすべく、今後、新たにコミュニティバス1台を導入し、市民が利用しやすい新たなルート編成や便数の増加、コミュニティバスなどでは補うことのできない地域を対象とした、デマンド方式の乗り合いタクシーの導入なども視野に入れた総合的な交通体系の見直しを行いたく、地域公共交通総合連携計画策定のための準備を進めているところであります。

次に、紀見北中学校区へのコミュニティバスの乗り入れにつきまして、現在、市内北部でも南海りんかんバス路線が運行されているところですが、バス路線のない地区やバス停から遠くにお住まいの方、介護タクシーや福祉有償運送の対象とならない高齢者などについても、市内全体の問題として、法定協議会において協議してまいりたいと考えておりま

す。

また、議員ご提案のコミュニティバス乗り継ぎ割引券につきましては、既に利用者から要望が寄せられている定期券や回数券の導入とあわせて、コミュニティバスを運行している南海りんかんバス株式会社及び法定協議会において協議をしてまいりたいと考えておりますので、ご理解のほど、よろしく願い申し上げます。

○議長（中西峰雄君）経済部長。

〔経済部長（山本重男君）登壇〕

○経済部長（山本重男君）議員おただしの、来春の新規高校卒業者の就職環境は、昨年からの世界経済不況や昨今の円高デフレにより、雇用情勢は非常に厳しい状況にあります。ご質問の市内の高校生の就職内定率ですが、平成21年9月末現在、ハローワーク橋本管内の高等学校における就職希望者は266人で、就職内定者は133人、就職内定率は50.0％となっています。

次に、市内の事業者が新卒者を採用できるよう助成金を出すことについてであります。若者が地元で雇用され、地域社会で活動できる地域づくりは、地元経済の発展と安定した社会形成が必要であります。

そうした中で、本市の取り組みといたしましては、新たな雇用を創出するため、環境と調和した企業の誘致やふるさと雇用創出事業等により、市内商工業の活性化に向け鋭意取り組んでいるところであります。

しかしながら、市内における中小企業の状況は、2008年の世界金融危機から現在も経済不況の明けぬ雇用情勢にあり、現状の雇用維持が精いっぱい現状であります。現在、市内企業の35社が、国の「雇用調整助成金」及び「中小企業緊急雇用安定助成金」制度を活用し、雇用の確保に努めていただいているところであります。

議員おただしの、市内企業への新卒者採用に対する支援については、まちづくりから見ての必要性は認識していますが、市独自の新規補助制度については、現在の市の財政事情を勘案した中では困難と考えておりますので、ご理解のほど、お願いいたします。

次に、京都府での来春高校卒業の未就職者への職業訓練についてであります。京都府では、景気低迷により就職が厳しい状況を受けて、来春高校卒業予定の高校生約100名を対象に、最大4カ月間有給で職業訓練を受けさせる制度を、国の緊急雇用対策基金により新たに設けるものであります。

現在、和歌山県が取り組んでいる高校卒業者への就職支援活動の主なものとしては、県がハローワーク等と連携し、若者の就職を応援する「ジョブカフェわかやま」において、就職相談や各種セミナー、職業紹介などが実施されています。緊急経済対策として「ジョブカフェわかやま」の取り組みがさらに充実され、コーディネーターの追加配備や各高校のニーズに応じたセミナーの開催、カウンセリングの実施、若者の求人開拓のための企業訪問も実施されています。また、11月からは高卒予定者も参加対象に拡大して、就職希望者と求人企業との出会いの場である企業説明会も開催されました。

議員おただしの、本市の来春高校卒業の未就職者への職業訓練については、取り組みはできませんが、平成22年1月21日、和歌山労働局、和歌山県、橋本市等が主催する橋本・伊都地域企業合同面談会を橋本商工会館で予定しておりますので、今後、関係機関と連携を図りながら高校卒業予定者の雇用促進を進めてまいります。

○議長（中西峰雄君）2番 阪本君、再質問ありますか。

2番 阪本君。

○2番(阪本久代君)ありがとうございます。

1番の高卒未就職者を出さないために、から再質問をしていきます。

まず最初に、市内の橋本管内のハローワークの就職内定率についてお答えいただいたんですけども、実は通告を出した後で、和歌山民報というのがありまして、そこに10月末現在の新しいデータが掲載されたんです。それを少し紹介いたしますと、9月の時点でも、かなり前年度と比べたら内定率も低いんですけども、10月末になっても同様に低い水準になっています。和歌山県全体の2007年の求人倍率は0.85で、内定率は66.8%ありました。それが昨年、2008年になりますと少し良くなって、求人倍率が0.9、内定率が66.9%ありました。それが今年になりますと、求人倍率が0.66で、内定率が55.6%と10月の時点でも落ち込んだままになっています。

それと、橋本管内、先ほど9月末の就職内定率が50%という答弁だったんですけども、ちょっと9月末と数字が違うんですが、橋本管内の求職者数が10月末で言いますと256人、求人数が56人、求人倍率が0.22と、県内で言いましたら串本の0.18に次いで求人倍率がかなり低いんです。しかし、就職内定率になりましたら10月末では61.7%で、1カ月で11.7%上がってるんですけども、それでも昨年と比べたら20.7%下がったままということで、高校生にとってかなり今年の就職状況が厳しいということが、この数字からもわかると思うんです。

それと同時に、先ほども2番の答弁の中で新たな就職先ということで、企業誘致にも取り組んでおられるということで、この求人倍率が0.22とすごく低いところからも、やっぱり企業誘致も大事ということも出てきていると思うんです。

ただ、こういう状況の中で、なかなか市と

してできることは少ないかもしれないんですけども、いろいろな働きかけということは大事だと思いますし、また、先ほども必要性を認識しているということもおっしゃってましたので、そのことを踏まえて再質問したいんですが、確かに企業誘致も大事なんですけど、市内の企業で言えば、雇用を守ることが精いっぱいというのが先ほど答弁されました。平成18年度の事業所企業統計調査結果によりますと、橋本市内には2,834の民営の事業所と、1万9,417人の従業者がおられます。ということは、これから3年たってますので変化はあると思うんですが、2万人近い雇用の場があるということなんです。ですから、市内の2万人近い雇用の場を本当に活性化して、1人でも雇用ができるような状態にしていくということがすごく大事ではないかと思うんです。

そういう点で、いろいろされてはいるけれども、現状は現在の雇用を維持するのが精いっぱいということではあるんですけども、そこから一步踏み出して、やっぱり市もやり、事業所も一緒に力を出して前に進んでいく政策を出すために、事業所の訪問聞き取り調査であるとか、前の9月議会でも質問ありましたけども、地域活性化のための条例をつくることであるとか、そういうことが必要になってくると思うんです。

そこで、3月の議会で、ちょうど副市長が同僚議員の質問に対して、全部の事業所の調査はできないけども、福祉分野とか建設、いろいろな部署の中で、できるだけ職員が出向いて行って直接的な聞き取りをする、実態の把握に努めてまいりたいというふうに答弁されたんです。そこから8カ月たっておりますので、この間にどのような取り組みをされたのか、お尋ねいたします。

○議長(中西峰雄君)再質問に対する答弁を

求めます。

経済部長。

○**経済部長（山本重男君）**ただ今の質問でございますが、3月議会のほうでそういうご質問がございまして、推進していくということでご答弁をさせていただいております。そういう中で、一定、繊維業界それから地場産業を中心にいたしまして調査をいたしております。現在もやっております。資料としては、まだまとめているという段階ではございません。それから、まだ活用していくという段階ではございませんが、その一部を申し上げますと、橋本市内の事業所の調査では、経営上の大きな問題点といたしまして、サービス業では大型店舗の進出や店舗の老朽化、新規参入業者の増加、利用ニーズの変化への対応、需要の停滞、取引先の減少、人件費の増加等が挙げられております。

小売業につきましては、大型店、中型店の進出により競争の激化、購買力のほかの地域への流出、需要の停滞、代金の回収の悪化などでございます。販売価格が減少しているために利益率が低いということも言われております。

建設業につきましては、民間需要の停滞、官公需要の停滞、材料費、人件費以外の経費の増加、請負単価の低下、上昇難ということも言われております。

製造業につきましては、需要の停滞、製品ニーズへの変化の対応、原材料、人件費以外の増加、製品単価の低下、上昇難、大企業進出による競争の激化、熟練技術者の確保難、それから生産設備の不足、老朽化等が大きな問題として挙げられております。

大きな変化のない事業所におきましても、小売店では商品在庫の過剰、それから製造業、建設業では引き合いの減少等によりまして資金繰りの悪化が見られ、今後の予測としまし

ては、悪化・低下を予測している事業所が多く見られます。

その他、大手市内事業所におきましては、経営状況について、売り上げは最低時より少し回復してきたよというところもございます。

それから、雇用状況につきましては、国の制度、先ほども答弁で申し上げましたように、雇用調整助成金等を活用しながら何とか従業員を確保するのが精いっぱいであるというふうなことも言われております。

その他の、何に心がけているかということにつきまして、経費削減に心がけているというふうな調査を行っております。

以上です。

○**議長（中西峰雄君）**2番 阪本君、再質問ありますか。

2番 阪本君。

○**2番（阪本久代君）**ありがとうございます。

そういういろいろな調査をしながら、今はまだいろいろ聞き取りをされている段階だと思うんですけども、その中で力を合わせてできることがないかということ、これから探っていくところではないかというふうに思います。

その中で、今、福祉関係とかがなかったわけなんですけれども、例えば、先ほど紹介しました事業所の数の調査で、その中で産業分類別、規模別事業所の推移というのがあります。その中で医療・福祉の部門で従業員数、結構たくさんいらっしゃるんです。その中で2,602人いらっしゃるって、そのうち正社員、正職員が1,589人という、平成18年ではそういうことになっています。

そこで、先ほどの和歌山民報に載っていたんですけれども、来年の1月に伊都・橋本管内では合同面談会があるということなんですけれども、11月11日に和歌山市で、15日に田辺市で、高校卒業者を対象にした企業説明会

が行われています。その中で、和歌山会場では26社で求人数が103人、うち6割が介護職員であったそうなんです。田辺の会場では11社で求人48人、半分が介護福祉職、看護師であったそうです。

何が言いたいかといいますと、橋本市内でも介護保険が導入されてから、かなり介護関係の事業所も増えてますし、ただ、なかなか正職員での採用というのは少ないとは思いますが、3番とも関連するんですけれども、就職できなかった方を対象に、例えば、ホームヘルパー2級の講習を受ける講習料を援助するであるとか、橋本市で臨時で採用しながら、その中で何らかの研修を受けるという方法を考えるとか、そういう形での就職補助、就職に向けての援助といいますか、そういうことが考えられないだろうかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（中西峰雄君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）市のほうで支援するというのは、本当に限られた範囲の中しかできないというふうに考えますが、今、質問されました福祉部門も含めた中で、市としているんなことをやっていくというのは大変大事だろうと思っております。

市のほうの対応といたしまして、市内の38社が加入しております橋本市の企業連絡協議会というのがございます。その中で雇用についてのお願いをさせていただいたり、また、紀北工業の校長先生が会員として入っております。そんな中で、企業連絡協議会との交流を深めまして、市内企業の方に採用についてお願いをしていっているという現状もございます。

それから、雇用の促進ということにつきましては、市内企業を育成することが橋本市にとって一番大事なというふうに考えております。そういうことを実現するための

一つの方策といたしまして、産業振興条例の制定が有効だと考えております。事業者、商店会、経済団体、行政、市民の役割を明確にしながら、産業の振興と地域の活性を図るために一体となった取り組みをしていきたいというふうに考えております。この条例制定によって、一体化した取り組みの中で雇用が生まれてくるというふうに考えております。

以上です。

○議長（中西峰雄君）議長より申し上げます。2番 阪本君の再質問は、医療福祉関係について雇用施策はできないかと。特に具体的に言いますと、ホームヘルパー2級免許取得の補助等、具体的なこともおっしゃられております。そういう医療福祉関係について雇用施策はできないのかという再質問でございますので、答弁よろしくお願いします。

経済部長。

○経済部長（山本重男君）医療面につきましては、経済部だけで推進するというにもつながらないと思いますので、関係部局と協議しながら、どういった取り組みができるのか検討してまいりたいと思います。

○議長（中西峰雄君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）やっぱり市内の企業とかいろんな産業を振興していくためには、確かに経済部だけでは難しいかもしれません。企業誘致に関しては、特別な体制もとられますし、今、市内の企業の育成も大事であるということも述べられましたので、いろいろな部署で連携をとりながら、総合的に市内の企業の育成とか、また高校生の就職に対しても取り組めるような体制がつけられたらいいなと思うんですけれども、すぐ答えられる質問ではないと思うんですけれども、まあ言うたら、それぞれの課でばらばらにするんじゃなくて、いろいろと連携できるような体制も検討していただけないでしょうか。

○議長（中西峰雄君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）確かに、高校新卒者が就職にもれますと、次に就職するというのはなかなか難しいということも聞いております。そういった中で、経済部だけではなかなか難しい面もあると思いますので、関係部局と調整、協議をしながら雇用確保に向けてやっていきたいというふうに考えております。

○議長（中西峰雄君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）ありがとうございます。

それと、先ほどからも、市ではなかなか難しいという答弁がずっとあるんですけれども、この高卒者の問題に対しては、12月2日付の朝日新聞によりますと、京都府がやっているのと同じことなんですけど、来春の新卒者の就職状況が厳しさを増していることから、政府の緊急雇用対策本部は、生活費も支給される職業訓練の新卒専用コースを来年4月に設け、職につけない新卒者を数千人規模で救済する方針を決めた。新卒採用にもれると、その後の就職が難しくなりがちな高卒者の利用を見込んでいるということです。

市でも取り組んでいただきたいんですけれども、こういうのを受けて、いろいろ、先ほどは宮城県も紹介しましたが、秋田県では、各種資格試験や普通自動車免許の取得費用を補助する支援事業をつくり、新潟県では、医療・介護分野に就職しやすくするため、県内の介護保険施設などに就職した上で、介護福祉養成コースを学べるなどの支援制度を創設とか、全国ではいろいろなことが行われつつあります。和歌山県に対しても、雇用を促進するために、紹介だけじゃなくて具体的な方策をとるように、要望を上げていただくことはできないでしょうか。

○議長（中西峰雄君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）ただ今の質問でござ

いますが、各県においていろんな施策というか、そういうのをやっているというふうに伺っておりますが、では市につきまして、どこまでできるんかということもございます。また、財政上の問題もあると思いますので、今後、その辺については検討させていただきたいというふうに考えております。

○議長（中西峰雄君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）県のほうに対しての要望でございますが、それにつきましては、そういう機会があれば要望していきたいと思っております。

○議長（中西峰雄君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）機会があればじゃなくて、まあ言うたら、今、急いでしなければいけない課題ですので、機会を積極的につくって意見を上げるようにしていただきたいんですけれども、いかがですか。

○議長（中西峰雄君）経済部長。

○経済部長（山本重男君）要望させていただきます。

○議長（中西峰雄君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）できれば市でもやってもらいたいんですけれども、よろしく願いいたします。

2番のコミュニティバスに移ります。

一つ一つ確認させていただきたいんですけれども、今、地域公共交通基礎調査が、入札も終わって行われているところだと思うんですが、この調査でどういうことを調査されるのか、具体的に教えてください。

○議長（中西峰雄君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）国の補助を受けて今後進めていくわけでございますけれども、今までですと、ただ橋本市のコミュニティバスだけのことを考えておれば良かったんですが、今後より充実していくためには、やはり公共交通、電車・バス・タクシー等と、それ

から福祉有償運送等々の総合的な位置付けの中でのコミュニティバスの運行が必要かとなつてまいりますので、委員会といたしましては、国土交通省なり、和歌山県なり、各鉄道バス事業運営の方々の代表、それから市民の代表等と寄っていただきまして、すべてといえますか、市内の公共交通体系すべてを見直していきたいということを考えております。

ですから、具体的にということなんですけれども、例えば、極端にコミュニティバスの料金を下げますと、やはり他の公共交通、バス・タクシー等との影響も出てまいります。なおかつ、またバスを何台も何台も購入しまして、路線の充実を図ればいいんですが、今までの運行した中での収支率を考えますと、やはり財政的な問題も出てまいります。

そういったことで、総合的な判断をさせていただいて、今後も検討させていただきたいということで考えております。

○議長（中西峰雄君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）それは多分、今答弁されたことは、この基礎調査を受けて協議会の中でしていくことだと思んですけど、私がお聞きしたのは、今、実際に入札も行われて受けたところもある公共交通の基礎調査ですよ。何の項目を調査されているのかということをお尋ねしたんです。

○議長（中西峰雄君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）今現在は、具体的にはまだ作業には入っていない状況でございます。

○議長（中西峰雄君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）発注するということは、これこれを調査してくださいという項目があって発注するのではないんですか。

○議長（中西峰雄君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）失礼しました。

そういうことで、先ほどご答弁させていた

いただきましたように、各公共交通の運行状況、それから利用乗客数、そういったものの実態。それから各福祉有償運送なり、バス・タクシーの要求実態、そういったものになってまいります。そういうことで、その仕様書については、そういう内容を盛り込んだ中での入札をさせていただいたと。ただ、今現時点でまだ具体的な調査まで入っておりませんで、年内もしくは年明け早々に、そういう協議会を立ち上げていきたいというふうに考えてございます。

○議長（中西峰雄君）2番 阪本君、再質問ございますか。

2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）いろいろな運行状況とか実態調査をして、年明けに協議会を立ち上げたいということなんですけれども、今後、年明けの協議会を立ち上げるときに、その調査も踏まえるということですが、調査は現在の利用状況ですよ。現在の利用状況。これからの潜在的な要望といいますか、その調査時点ではまだ利用してないけれども、だけでも利用というのは実数ですから、その時は利用してないけれども、これからは利用を考えているとかという、地域要望ですね。そういうのは、この年明けにつくられる協議会にどのように反映されていくんでしょうか。

○議長（中西峰雄君）副市長。

○副市長（清原雅代君）この調査の基本的な考え方だけお話をさせていただきたいと思えます。

まず、法定協議会を立ち上げた以降のいろんな経費というのは、国のほうから補助金が出ます。ですから、その中でその補助金を使いまして、各種のまた調査とかそういうことも、いろんなアンケートをとるとかそういったことも、協議会の中で話し合いをしながらやっていきたいと思っております。



今回、調査費を使ってやる分につきましては、市の単費でございます。その中で必要最小限の、法定協議会が立ち上がった時点で何も資料なしにというわけにはいきませんので、現在の橋本市のいわゆる運行の現状といえますか、そういったことを調査いたしますと同時に、法定協議会を立ち上げるにあたって、国への申請の資料にもなる基礎調査といえますか、そういったことで、先ほど部長のほうで答弁させていただきましたように、いろんなバスとかタクシーとか、そういった公共交通機関も含めた中での全市的な現状を把握するというのも、今回の調査の大きな目標でございます。

○議長(中西峰雄君)議長より申し上げます。阪本君の質問は、住民の、あるいは市民の潜在的なニーズはどのように反映されるのかということでございますので、答弁のほう、よろしくをお願いします。

副市長。

○副市長(清原雅代君)ですから、法定協議会が立ち上がった後、国費を使いましてそういった調査をしていきたいというふうに考えております。

○議長(中西峰雄君)2番 阪本君。

○2番(阪本久代君)あともう一つ、市民の声を反映するのに、法定協議会の中に、ぜひ市民からも委員を公募していただきたいんですけどもいかがでしょうか。

○議長(中西峰雄君)総務部長。

○総務部長(中山哲次君)そのような形で、公募になるのか、今現在は各団体、市民の住民団体の代表の方々に幅広く、過去の検討委員会におきましても身体障害者連盟の方とか、高齢者の方々の代表とか、各区長さんの代表とかに出ていただいておりますので、そういった幅広く市民の声が聞けるような検討委員会なり調査をさせていただきたいというふう

に考えてございます。

現時点でも、過去にも調査させていただいておりますが、やはり、例えば定期券や回数券を発行してほしいとか、買い物に便利な大型スーパーの前でとまってほしいとか、そういった住民の身近なご意見もいただいておりますので、そういう方向で検討させていただきたいと思います。

○議長(中西峰雄君)2番 阪本君。

○2番(阪本久代君)いろいろな協議会とかに、各種団体の長の方とかいろいろ参加されていると思うんですけども、その団体を越えてと言いますか、団体以外にも広く声を集めていただきたいと思うんです。そのためにも、公募での委員ということも入れていただきたいんですが、今の答弁ではそういう考えはないように聞こえたので、もう一度、公募を検討していただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長(中西峰雄君)総務部長。

○総務部長(中山哲次君)公募する方向で一度検討させていただきます。

○議長(中西峰雄君)2番 阪本君。

○2番(阪本久代君)よろしく願いいたします。

次に移ります。

1コース1台必要ではないかという点で、先ほど、1台を購入して、新たなルートも編成していくという方向で考えているというふうな答弁だったんですが、何コースになると1コース1台といえますか、便数を確保するためには必要だと思うんですけども、その点は、実際じゃなくてやっぱり1コースに1台は要るのではないかとと思うんですが、その点はいかがでしょう。

○議長(中西峰雄君)総務部長。

○総務部長(中山哲次君)今現在は2台で3コースを運営させていただいております。

東・中・西とコースがあるわけですが、東ルートでございますと57分の所要時間ということになってきております。長いコースですと2時間近くかかるコースもございます。そういうことで、基本的には1コース1台ということで、1台1コース、3台で3コースを運用していく考えでございます。

○議長（中西峰雄君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）できたら、例えば4コースになれば4台にさせていただきたいなど。何コースになるかわかりませんが、していただきたいなと思います。

次に、紀見北中学校区の問題なんですけれども、紀見北中学校区だけではなくて、今、交通機関のない地域、またはバス停の遠い地域について、市内全体の問題として検討していくという答弁でありました。以前に質問した時にも、公民館にはすべて行っていますというふうなこともおっしゃったことあるんですけど、紀見地域で言えば紀見北地区公民館も紀見地区公民館も、その前まではこのバスは行ってないんです。やっぱり公民館活動、まあ言うたら、公民館でいろんな行事があって、行きたいと思ってもなかなか行けないという方もいらっしゃると思いますので、今はだいたい市民病院と市役所が中心のコース編成になっていますけれども、乗り継ぎとかも考えていったら、この紀見北地区公民館中心のコースというのも考えられるんじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（中西峰雄君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）このコミュニティバスを運行させていただきまして、非常にありがたいのは、毎年毎年増加もしてきてございますし、非常に市民の方からもありがたい、助かってるんだというご意見もいただいております。そうした中で、今回は紀見北中学校コースをとというご提案でございますが、これ

以外にも、ほかにも各住宅開発地の中をコミュニティバスが入って来てほしい、そういったご意見もいただいております。

なおかつ、今後、紀見平野線の問題もございまして、そういったことも含めまして、今この場でこのコースを、紀見北中学校コースを入れますとか入れませんというご答弁は非常に苦しいわけでございますので、ただ、市民の方々からたくさんのご意見はいただいておりますので、そういったご意見も会議の中では議論はさせていただきたいと。そういうことで、こういう答弁をすると、市内全体で考えさせていただかないと、非常に机上でだけはいかない問題もございまして、各区長さんからもいろんなご意見をいただいておりますので、できるだけ利便性を増すような検討はさせていただくということをお約束させていただいて、ご答弁にかえさせていただきたいと思っております。

○議長（中西峰雄君）2番 阪本君。

○2番（阪本久代君）よろしく願いいたします。

割引券の問題は定期券、回数券と同様に検討するということですので、ぜひよろしくお願いいたします。

今からいろいろと検討されるんですけども、ここで長野県の本曾町の公共交通システムを紹介したいと思います。本曾町は2005年に本曾福島町、開田村、日義村、三岳村が合併してできた面積476.06km<sup>2</sup>、平成21年12月1日現在で人口13万60人の町です。ここで、本曾病院をターミナルとして開田、日義、三岳の3支所を結ぶ幹線バス、幹線バスと接続し、それぞれの支所の周辺集落を結ぶ巡回バス、電話予約で自宅とバス停を結ぶ乗り合いタクシーと3種類で、まあ言うたら町全体を網羅しているわけです。運行総距離が延べ543km、停留所は250箇所という公共交通システムを

つくっておられます。

コミュニティバスにこだわらず、いろいろな形で、本当にこの橋本市でも、この広い橋本市ですけれども、同じようにこういう、何というか、組み合わせれば本当に便利な橋本市になるのではないかなと思うので、ぜひ参考にしながらつくっていただきたいと思います。

ただ、先ほど料金のことを言われてましたが、この木曾町では、どこからどこまで乗っても200円なんです。乗り継ぎしても。そのこともあわせて紹介をして、質問を終わります。

○議長(中西峰雄君) これをもって、2番 阪本君の一般質問は終わりました。

この際、10時40分まで休憩いたします。

(午前10時27分 休憩)